

特集

子育てに寄り添う

多世代が集まる大勢の中で子育てする家庭が多かった一昔前と比べ、核家族化が進んだ今、共働きや、ひとり親の家庭が増加するなど、子どもを育てる環境は大きく変化しています。

今回は、子育て中の方と子育てが一段落した祖父母世代の皆さんを集め、子育てへの想いを話し合う座談会を実施。今と昔の子育て環境の変化を共有し、多様化する子育て支援の現状に迫ります。

問合せ：こども未来政策課（☎51・2325）

子育てで広がる「コミュニティ」

山口●豊橋に来てママ友もいなかった頃は、子どもと二人中、対一なので社会から孤立している感じがして不安でした。それで、ママ友の募集や子育てに関する活動をインターネットで調べ、外に出るようになってからは友達ができ、不安が解消されました。

杉山●大人になると、なかなか友達を作る機会が少なくてすし、小さい子どもを連れて出掛けることも大変です。私は子どものサッカーチームの活動を通して、学校や地域だけではなく子育ての話ができるつながりができました。



寺田●子育て中は、目の前のことで精一杯で、気付いたら孤立しがちです。私も息子を通じて知り合った親と40年近く仲良くして、今でも交流があります。それに、昔は子育てで困った時、両親や近所の方に聞いていたのですが、今はいろいろな情報が手に入るの、子育ての幅が広がっていると感じます。

田村●こども未来館によく行きますが、豊橋

にはさまざまな遊び場があって、同じ子育て中の方と情報交換ができるので、心強いですね。

働きながらの子育て

山口●今後、仕事を始めようと思っていますが、子どもが病気になった時に休めるかどうか不安です。

田村●そうですね。私は親が近くにいないので、頼ったり、預けたりできる人がいないと、仕事を続けられるか心配です。



寺田●私たちの時代は、どこかに預けることはあまりありませんでしたが、身内でない人に預けて大丈夫なのかなと思ってしまいます。

杉山●長時間、子どもを預けていると、母親の怠慢のように見られたり、子どもがかわいそうと思われていたりしないか周りの目も気になります。

菰田●女性の社会進出が進む中、安心して働ける環境の整備と周りの理解が必要ですね。

座談会に参加した皆さん

菰田 宜久さん
(70歳)

4児を育てた父。当時は子育てに協力的ではなかったと振り返る。

山口 舞弓さん
(39歳)

夫の転職を機に、京都府から移住した2児の母。

杉山 智代さん
(34歳)

3児の母。子どものサッカーチームなどに積極的に参加中。

田村 麻生さん
(38歳)

名古屋市出身の1児の母。夫と協力して子育てに奮闘中。

寺田 かな江さん
(70歳)

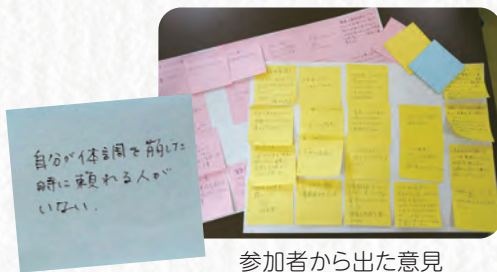
3児を育てた母。今は働きながらも孫育てを楽しんでいる。



男性の育児参加

菰田●私が働いていた頃は、男性は仕事で女性が生計を立てるものだと思っていました。仕事はいつも残業があり、飲み会で帰りが遅いことも多かったため、妻から見れば育児参加に関して最悪の評価だったと思います。

山口●男性は仕事、女性には家庭のイメージが強いですが、でも、自分の体調が悪い時には仕事を休んで家事・育児をしてくれたりうれしいですね。私も働いていたので、簡単には休めないことも分かりますが…。



参加者から出た意見

菰田●当時は、子育てのために休むという考えがありませんでした。それに会社での立場が不安で、なかなか休めませんでした。今は共働き夫婦も増えているので、そうも言っていられませんが…。

田村●うちは、夫が家事や子どもの世話にとても協力的です。洗濯や食事の片付けなど、少しでも自分のできることをやってくれるので助かります。

杉山●1人目の時は、夫から「自分では子どもが泣き止まないから」と私に任せられたことが多かったのですが、2人目、3人目と生まれると手が回らなくなり、協力してくれるようになりました。お互いの役割分担が大事だと思います。



田村●働く女性が増える中、男性が育児や家事をする姿が自然になり、社会自体も男性が仕事を休みやすい環境になると良いですね。

今と昔の子育て環境や意識について共有した皆さん。それぞれの疑問や不安を解消するため、実際にさまざまな子育て支援の現場に行ってみました。

取材した皆さん



利用者
● 高橋 紗恵さん(27歳)
侑真くん(5か月)



ホームビジター
● 鳥羽 幸子さん(67歳)

家庭訪問型子育て支援 ホームスタート

「外出しづらい」「頼れる人が身近にいない」など子育てに悩む家庭を、地域の子育て経験者がホームビジターとして訪問し、子育ての不安や悩みを聞くなどの支援を行います。

問合せ: 特定非営利活動法人NPO まんま
長田 (☎090・6760・8854)

私が聞いて
来ました!



寺田 かな江さん

Q 利用したきっかけは?

高橋●子どもが抱っこでないと寝なかつたので、家事ができなくなつて悩んでた時に、保健師さんに聞いて利用してみようと思いました。

鳥羽●私は人の話に耳を傾ける「傾聴」の講座を受けたことがきっかけで、私にも何か子育て世帯の力になれるのなら、ホームビジターに登録しました。

特に最初の子の時は、何も分からず手探りで必死ですね。



Q どんな活動をするの?

鳥羽●特別なことはしていませんが、高橋さんの話に耳を傾けるように心掛けています。話を聞くだけで、心に余裕が生まれるのではないかと思います。

高橋●ずっと家の中にいて気持ちが沈

むこともありましたが、鳥羽さんが話を聞いてくれることで、気持ちが楽になり、家事もできるようになりました。何より、鳥羽さんの笑顔で私も侑真も笑顔になりました。

鳥羽●時には一緒に離乳食を作ったり、外出したりすることで、次からは一人でもできるような自信につながっています。でも、私の方が侑真くんに遊んでもらっていますよ。子どもや親が頑張っている姿を見ると私も元氣になりますし、今の子育てから学ぶこともあります。お互いに支え合いですね。

次回からは親子だけで出掛けられます。



Q 支援を通して気付いたことは?

高橋●赤ちゃんが泣く理由のほとんどが眠たいからだと思っていました。鳥羽さんが話し掛けたり、抱っこしたりすると泣き止むのを見て、接し方ひとつで変わるんだなと気付かされました。

寺田レポート

話を聞くことで、子育て中の皆さんを笑顔にできるのは良い活動ですね。預けるという感覚ではなく、一緒に子どもを見るので、お互いに安心して面倒を見られると思います。私が子育て中の時は余裕がありませんでしたが、ちょっと落ち着いた今だからこそ、力になれることがありそうだなと感じました。

鳥羽●昔は兄弟が多く、弟や妹の成長を見ながら大人になっていきましたが、今はそうした経験がない人も多いので、どうしても不安になりますよね。そんな時に、私たちの経験が少しでも役に立てばと思います。昔の子育てを押し付けるわけではありません。離乳食ひとつとっても時代で考え方が変わってきますし、子育てに正解はないと私も考えられるようになりました。親や周りの人が愛情をかけて、子どもが健やかに成長していくことを願うばかりです。



取材した皆さん



依頼会員
●古関 純子さん(41歳)
葉里ちゃん(2歳)

援助会員
●日比野 昭子さん(71歳)

ファミリー・サポート・センター

現場におじゃ
ましました。



孤田 宜久さん

仕事と家庭の両立や子育ての支援
を行うため、援助を受けたい方と、
援助できる方のつながりを作り、互
いに助け合う会員組織です。子ど
もの預かり、送迎などを行います。

問合せ:とよはしファミリー・サポ
ート・センター (☎56・7500)

Q 依頼したきっかけは？

古関●実家が静岡県で両親に頼れず、
当時は夫も単身赴任だったため、一人で
の子育てに難しさを感じていた頃、こ
の活動を知って登録しました。

日比野●援助会員になって19年ですが、
古関さんのように誰にも頼ることがで
きず、依頼する方はたくさんいますよ。

古関●私は週1日の2〜3時間程度、
娘を日比野さんに預けて、病院へ行っ
たり、買い物をしたりと、日頃、ゆっく
りできない用事を済ますようにしてい
ます。

Q 子どもを預けることに抵抗はない？

古関●最初は、見ず知らずの方に子ど
もを預けるのは不安でした。でも、預け
る前にお会いし
て、いろいろと話
すうちに日比野
さんの明るい性格
に惹かれ、安心し
て預けることがで
きました。今では
娘だけでなく、私



にとつても日比野さんの家が憩いの場
であり、もう一つの豊橋でのおばあちゃん
の家になっています。

Q 預かる上で心掛けていることは？

日比野●自分が子育てをした時に、こ
うした方が良かったなと思うことを実
践しています。自分の子どもには、「何
でこんなこともできないのだろう」とい
ういらしたこともありましたが、葉里
ちゃんのことば長い目で冷静に見られ
ますし、子どもと触れ合うことが楽し
くて仕方ありません。

子育てを終えた
今だからこそ、余
裕を持って見ら
れるんですね。



初日は葉里ちゃんも心細かったよ
うで泣いてしまいましたが、2回目には
すっかり慣れて、今では仲良く遊ん
でいます。子どもがリラックスして自
然体でいられるようにしてあげたいで
すね。

Q この活動の良いところは？

古関●預かってもらう間に、何をして過
ごしたかが分かる活動報告書を日比野
さんが書いてくれるので、それを読むと
安心できますし、自分が気付かない子ど
もの一面を発見できます。いろいろな遊
びを教えてもらうなど、娘にも良い刺激
になっています。私も自分の時間を持つ
ことでリフレッシュでき、心に余裕を持っ
て娘と向き合えるようになりました。

日比野●子育て世帯の力になれること
にやりがいを感じます。お子さんの成
長を一緒に見守っていききたいですね。

孤田レポート



子どもに寄り添い、愛情を持って接する活動だ
と思いました。だからこそ、親は安心できますし、
支援する側はやりがいを感じられますね。また、
お子さんにとつても親以外の人と過ごすことで
育まれるものが多いなと感じました。この活動を
利用すれば、子育て世代が働き続ける上で大き
な後押しになるのではないかと思います。

取材した皆さん



看護師
●坂本 志津さん

看護師
●下村 かおるさん

病児保育

しっかり見学したい
と思います。

風邪などの病気中や回復期の、おおむね6か月児～小学生で、保護者が仕事などの場合に一時的に預かります。

問合せ:こじかこども園病児
保育室(☎25・0528)



杉山 智代さん、山口 舞弓さん

Q どんな特徴があるの？

坂本●お子さんに安心して過ごしてもらえよう、基本的には保育園などと変わりなく、おもちゃを置いたり、楽しい雰囲気のある飾り付けをしたりしています。またシャワールームを設置しているので、嘔吐や下痢で服や体が汚れてしまっても、体を洗い流して清潔にしています。さらに、目が行き届くよう、受け入れは1日3人にして、病状や年齢に応じて看護師と保育士が見ています。

Q どの程度の病気の子を預けて良いの？



やわらかい雰囲気
で、子ども
もなじめそう



下村●保育室が複数あるので、インフルエンザなどの感染症も、一定の条件を満たしていれば利用できます。大事な

お子さんを預かるので、いざという時に備えて、既往歴や特性など、細かく聞いてから受け入れるようにしています。

使用後は清潔に
しています



Q 受け入れる時に心掛けていることは、

坂本●「ゆっくり寝ていいんだよ」「遊びたい？」などと話し掛けて、その子のペースに合わせるようにしています。家で過ごしているかのように安心できる場所を目指しています。また、病気のお子さんをやむを得ず、預けなければならぬ事情や罪悪感といった親御さんの気持ちも痛いほど分かるので、気持ち良く仕事へ出掛けられるよう明るく送り出しています。

こんな風に考えて
てくれていると、
私たちも励まされ
るね。



下村●迎えに来た際には、体温変化や

杉山・山口レポート

病院の一室のようにベッドだけがある部屋を想像していましたが、開放的な空間と頼れる看護師さんたちがいて安心しました。子どもを実際に預けた場合も、落ち着いて過ごせらるうなと思います。こうした支援があると、働き方にも選択肢が増えて、仕事を続けながら子育てができますね。



食事・排泄状況など、日中のお子さんのようすを伝えることで、家に帰ってから対応に困ることがないように心掛けています。心配なことがあったら私たちに何でも聞いてください。



田村俊也さん(43歳)、優成くん(2歳)、麻生さん

番外編

今ドキ!!

男の育児事情

座談会で、夫が子育てに協力的だと太鼓判を押していた田村さんのお宅を訪問し、子育てで大切にしていることや男性の育児参加についての考えをお聞きしました。

24時間、母親である必要はない

私は早朝出勤や残業が多いので、どうしても家事・育児を妻に任せることが多くなっていますが、食事の後片付けや子どもの寝かしつけ、子どもと一緒に遊びに出掛けるなど、できる時にできることをしようと心掛けています。妻と話し合い、分担制にはしていませんが、妻が家事・育児



から解放される時間を作り、リフレッシュできるようにしています。



些細なことでも声を掛けることは大事

妻は不安に思っている、私が気付いていないこともありますし、話す機会を増やすことで子育てについての意思疎通を図ることができます。子育ての喜びや不安を共有するだけでも、妻の

心に余裕が生まれると思います。

子どもの成長を見守れるのは今しかない

子どもと過ごす時間は限られていますので、一瞬一瞬を大切にしたいですね。そして、働き方や職場の意識など子育て世代の負担が少しずつでも改善されると、理想とする子育てができる人が増えていくと思います。



「抱き癖がつくよ」「小さいのに長時間預けてかわいそう」など、祖父母世代との価値観の違いを感じ、子育てに自信をなくす親がいます。祖父母世代と子育て世代では育ってきた環境や文化が違いため、価値観や考え方が違って当たり前です。どちらが正しいではなく、多様化する今の子育てに寄り添ってみてはいかがでしょうか。事情を知りお互いに歩み寄るだけでも、親にとって大きな助けとなるはずです。